

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400976		
法人名	有限会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺本館		
所在地	名古屋市西区新道一丁目3番12号		
自己評価作成日	平成30年10月20日	評価結果市町村受理日	令和元年 6月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kihon:true&JigyosyoCd=2370400976-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業理念である「人生楽しく自分らしく」をもとに住人様一人一人の想いに寄り添い、地域の一員としての暮らしを大切にしています。また重度化や終末期にはご家族様やご本人の想いを尊重した支援をいたします。限られた時間、体力低下していく中できることに限りはありますが、食べたいもの、会いたい人、行きたいところ等、ご本人の想いが一つでもかなえられるよう支援していきます。そして看取りの場としてこのホームを選んでいただいた時、医療やご家族様と密に連携し、またスタッフ間で話し合い、共有、協力し、限られた時間、ご本人に寄り添いながら日々の変化にも対応した支援を致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問当日、利用者が職員を交えてリビングに集い、兄弟姉妹のように笑顔で会話をしたりテレビを視聴する姿があった。事前資料の情報では、介護度が高く重度化が進んでいるように感じたが、実際の様子は前述の如く少し違っていた。確かに平均介護度は高く、認知症の症状が出ているものの利用者の表情は穏やかであり、元気に会話や意思を表明し、可能な家事に率先し関わっている。
法人理念である『人生楽しく自分らしく』は職員に浸透しており、利用者のホームでの暮らしが充実したものとなるよう支援している。例えばプロ野球ファンの利用者はナゴヤ球場まで観戦外出し、お酒好きの夫のいる夫婦利用者は職員と3人で中華料理店の宴を楽しむなど、利用者の感動や喜びの機会を創っている。利用者と思う職員の強い気持ちと支援が、利用者の元気の源になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	菊井中学校の運動会観覧。幅下学区のお祭りや敬老会、盆踊りにも参加している。以前から、お付き合いのある第三幼稚園の焼き芋会への参加をしている。	法人理念『人生楽しく自分らしく』は、新人職員の導入教育に説明を行い、職員会議の都度、理念を話題に話し合い、職員には十分浸透している。職員は話し合いの上、理念を実践するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の買い物で、地域のお店の利用をしている。買い物中に、何かあれば助けて頂いている。町内会長の奥様にはイベントの時には率先してご協力いただいている。	地域の商店街恒例の「七夕まつり」に展示する大きな“はりぼて人形”の製作に利用者が関わり、祭りに出かけている。向いの中学校の職場体験を受け入れ、中学校の行事見学に出かけ相互に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にて地域の方に理解、支援の方法について話をしている。また、菊井中学校の職業体験実習の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長様にはほぼ毎回ご参加いただき、率直な意見を頂き、地域防災協力の地域提携を結んでいる。	年6回の運営推進会議には、利用者、町内会長、複数の民生委員、行政が参加している。ホームの状況報告に加え、目標の公開、外部評価結果報告、地域交流と多岐にわたって意見を交し実践に活かしている。	ホーム運営に関わるべき家族の会議参加が確認できない。家族は利用者を支え、運営に関わる当事者と言えよう。会議の参加を働きかけ、意見を交換する機会とするよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所の方もホームに訪問があり、利用者の生活を伝えている。	生活保護の利用者を複数受入れており、区・担当課と連携して利用者を支援している。行政の福祉用具の助成制度の申請の際は、必要に応じて用具の選定に関わり、家族と相談のうえ、円滑な手続きを支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外施錠せず、ご利用者様の外に出たいという願いを極力阻害しないようにしている。皆で協力しながら、ご利用者様の安全を見守りながら対応している。	法人内に身体拘束に関わる委員会を設け、職員の教育や拘束の防止に努めることとしている。ホームの玄関、3階構造の非常階段、エレベータの利用に施錠はなく開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	弊社で、身体的拘束適正化委員会を立ち上げている。3カ月に1回参加している。委員会で挙げた項目を持ち帰り、日々身体的拘束になっていないかどうかをユニット会議などで討議している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護団体と契約している利用者様がいる。月に一度来訪されるため、その都度近況報告をしている。しかしながら、全職員が権利擁護の理解には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に話す内容を会社と討議し、利用者様、ご家族を交えて懇切丁寧に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々ご意見を伺うようにしているが、定期的に利用者様やご家族からアンケートを取り、職員に公表し、必要があれば会議などで話し合っている。	家族会、アンケート、メール、電話、家族の訪問時の面談と、家族が意見を表す機会は多くある。アンケートでの家族の『利用者のトイレの支援を速やかに』の要望を検証し、職員に周知のうえ家族に対策を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	弊社で行っている職員アンケート、面談、ユニット会議や、内部監査の聞き取りを通して、会社に対して要望を挙げている。職員の要望などを月1回の管理者会議や、部門別会議にて事案を挙げている。	法人理念『人生楽しく自分らしく』を踏まえ、毎月職員会議を開いて利用者本位の支援となるよう気兼ねなく意見を交している。管理者は毎月、職員の個人面談の機会を設け、個別に意見を確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の面談、新職員には週1回の面談をしている。賞与時期は、自己評価表と、職員アンケートなどを用いて管理者・スタッフが共に成長できるツールを設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修の機会が設けられている。外部研修も周知されており、希望者が参加出来る様シフト調整を行っている。初任者研修・認知症実践者研修への参加も会社から案内がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内のコンソーシアムが毎月行われており、日程が周知されている。他法人の職員との交流もある。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない頃の不安の心理状況を理解し、帰りたいなどの気持ちを否定せず、傾聴する事で少しずつ信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の来訪時には、積極的にお声掛けし、日々の様子を話したりし、些細な事でも話して頂ける機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等の情報や、ご本人のお話やご様子から支援の方向を見極めている。ご本人から直接お聞きする事を一番と考え、ゆっくりと環境に慣れて頂けるよう、コミュニケーションを密に取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者様の「出来る事・したい事」を、少しでも実現できるように支援しながら、一緒に楽しみ、張りのある生活になるように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何時でも自由に、ご家族様が来館頂ける環境を整えている。ご家族様からのご意見をお聞きし、気づきを頂く場面や、ご家族様を巻き込んで頂けるよう、こちらからの働きかけをお願いすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や、関係のある方が気軽に来訪して頂き、時には一緒にいて頂いたり、外出に連れ出して頂けるように働きかけ、時間を過ごして頂く事もある。	踊りの師匠である利用者の弟子がホームを訪ね、時には連れ立って食事に出かけている。馴染みの美容院や墓参りの外出の支援、趣味の編み物、習慣の晩酌の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性については、スタッフの中で共有し、時には仲立ちをしながら様子を見ている。ユニットに分かれているものの、垣根を超えた関わりを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の方の事例がない為、前例に倣った対応が出来る様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に沿った生活作りをしている。体調や安全確保できるなどの状況を整え、日々過ごして頂けるようにしている。その際は、ご本人の望みは何か心に傾けている。	利用者の思いや意向を把握し、理念に唱える『楽しく自分らしく』を実践するよう、職員一丸となり取り組んでいる。把握した利用者の意向は職員会議に集めて共有している。	利用者の思いや意向を漏れなく把握するため、職員の口頭の情報提供に留まらず、記録に残して共有する仕組みを築き、更に実践に反映するよう一考願いたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを基に行っているが、ご本人、ご家族、友人などからの情報を集める事にも力を入れている。そこで出た情報を職員で共有し、プランや生活歴に反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々体調、お気持ちは変化することを念頭に置いて様子を職員間で申し送りし、共有している。心身の状況に合わせて臨機応変に対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議で見直しの声掛け、ご家族様の意向についての聞き取り後、カンファレンスを行い、支援の方向をチームで考え決定している。その際には、ご本人、支援に関わるご家族様・医療等専門職の情報や意見を取り入れている	毎月、職員のモニタリングを行い、利用者、家族の意見を確認のうえ介護計画を見直している。日々の支援の中で、利用者の多くの思いを叶えている。介護計画の中に、利用者の思いを反映した課題は少ない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌にご本人の様子・スタッフの支援や気づきの項目に分けている。ケアプランを反映させる為の日誌だが、まだ理解が浸透していない部分もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様から出た「～したい」をかなえられるような行事計画や、日々の生活の中でのニーズを職員がアンテナを張り、可能な限り答えていけるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの理容室、馴染みの近所のスーパーに買い物に行く等、地域資源を生活の一部として活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時にご本人の様子を医師・薬剤師・看護師に伝え心配事等の相談に乗ってもらっている。受診の際は、ご家族様にも相談をし納得のいく医療を受けられるように、支援している。	法人の運営する訪問看護事業の看護師が親身に利用者の健康管理に努めている。月2回の協力医の往診時は看護師、薬剤師、管理者を交えて意見を交換し、チームケアの体制を敷き、看取りにも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回専属の訪問看護が入り、利用者様の健康状態を把握しているので、管理者・スタッフはご利用者様の近況の報告、相談をしている。急な体調変化があった時には随時連絡し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様の基本情報を速やかに病院へ提示できるようにファイルを準備している。入院中は、定期的に病院へ出向き、ご本人の様子を担当医師、看護師から何うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて、ご本人、ご家族様に書面にて説明。終末期には再度、可能であればご本人、ご家族様の意向を確認。医療介護連携をし、ご本人らしく終末期を迎えて頂けるように取り組んでいる。	これまでに複数の看取りを経験している。看取りに際しては、家族、医療関係者、管理者の話し合いを行い、家族の感謝する後悔のない看取りに努めている。職員は利用者を偲び、遺影をリビングに飾るほど利用者思いである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成。常時見えるところに掲示。ユニット会議などでも確認・演習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練はもとより、非常食・常備水の配置、町内会長を通じての最新情報の収集など行っている。	消防署の協力を得て、年2回昼・夜を想定した避難、訓練、通報訓練を実施し、避難経路の見直し、防災設備の操作方法の訓練を有事に活かすよう取り組んでいる。ホームは、地域と災害時の支援協定を結んでいる。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の性格や、ペースなども考慮しながら、ここにいても良いという気持ちを持てるように、丁寧な声掛けや、困った事を一緒に考える事が出来る様に配慮している。	職員は利用者それぞれの性格、得意なこと、生活歴を把握し、利用者の心に沿う失礼のない支援に努めている。異性の苦手な利用者の入浴、トイレなどの支援は、同性介助として配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面でご本人と話しをしながら決めたり、食事や更衣時などには、どちらを選んで頂くのかなど選択の場を多く持つ事で、表出しやすい場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画である程度の予定は決まっているが、利用者様のペースやその日の気分によって変わる事も想定し、希望に合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に選んだり、時にはご自分で選択できる場面を作っている。季節に応じた調整が図れるように声掛けをする事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ終えた食器を持って行ける方に関しては、持って行ってもらえるようにしている。後片付けは出来る事をお願いしながら一緒にやっているが、作るという事に関しては課題である。	食材の調達は、地域の八百屋に利用者と買出しに出かけている。メニューは家庭同様、利用者の意見を参考に、冷蔵庫と相談して決めている。時には寿司の出前をとったり、外食に出かけ利用者の希望を叶えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じて食事量水分量を記録している。特に脱水状態に陥りやすいご利用者様については、細かく記録を付けている。栄養摂取の面で不安がある状況があれば往診にて相談を適宜に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な利用者様については歯科医と相談をしながら口腔ケアをしている。往診時にも現在の状況を伝え、治療が必要な場合は依頼をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを知り、適宜トイレ誘導や声掛けをしている。オムツを使用される方については、皮膚観察をしっかりと行い、快適に過ごしていただけるようにしている。ご本人の体調等に合わせて排泄用品の選定等を行っている。	排泄記録を取り、利用者それぞれのパターンに合うトイレの声掛け・誘導に努め、失敗のない排泄に努めている。転倒のリスクのある利用者は、居室にポータブルトイレを置き夜間の安全を確保している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な食事や水分摂取量から、スムーズな排便リズムが出来る事を職員や、排泄がきっかけで気持ちが変わる場合もあるという捉えられるようスタッフ間でも話し合っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気持ちの状態に応じて、臨機応変に対応している。時間の希望にも対応する様にしている。	週2～3回の入浴を支援している。歩行に不安のある利用者はシャワーと足浴とし、安心、安全を確保している。入浴の苦手な利用者は無理強いせず、家族の協力を得て解決策を探り、入浴できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご本人の選択に任せている。就寝中は音や光に配慮し、安心して休息できる環境作りに努めている。寝付けない方については、ゆっくりと話を聞くなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬剤情報を職員間で情報共有している。服薬の際の事故を防ぐ為に、専用ボードや服薬管理表を用いている。定期処方薬の変更や頓服の服用時などは少しでも変更あれば記録や申し送りをするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調をみながら、洗濯ものたたみや日めくりなど出来る範囲で役割を担っていただいている。また「手伝おうか」と声を掛けて下さる利用者様に、一緒にやって頂けるよう働きかけている。偏る傾向はある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域を散歩していると、「昔ここに連れて来てもらったの」と喜んで話して下さったことがある。ご友人の方とも職員が知り合いとなり、行き先等聞いて外出され、その後喜びを分かちあう事を意識している。誕生日に野球観戦などを計画し、出かけている。	周辺の散歩や地域の喫茶店の外出を、気分転換の機会としている。知多半島への温泉旅行、毎年恒例の地域の幼稚園の焼き芋を楽しむ行事への参加、プロ野球観戦、中華料理、回転寿司外食と、様々な外出に力を注いでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力を見ながら、日用品については、本人の購入したいものを買っている。所持金が少ない方については、大切に貯めて買いたいものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があった際は事務所や、ご本人の部屋に行き対応をしている。手紙の際は宛名書きのサポートを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはベランダに接しており、希望があれば日光浴をしたり、季節を感じてもらっている。	対面キッチンを配したリビングは家庭的な雰囲気演出し、殆どの利用者は日中リビングに集い会話、テレビ鑑賞、レクリエーションを楽しんでいる。リビングのテーブル席は日々変化する利用者の相性を考え、その都度変更している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいだり、お話をしたい方のそばへ行って談笑したり、ユニットを訪問したりと、思い思いに過ごせるよう空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のなじみのものを入居時に持ち込んでいただいている。思い思いの生活空間が出来るように努めている。	利用者の使い慣れた家具のほか、鏡台、衣類、テレビ、趣味の編み物の道具と作品、書籍、家族写真、遺影等を自由に持ち込んでいる。それらが、利用者にとって居心地良く配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわからなくなったりしないように、本人が動きだしたら声掛けをして案内している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400976		
法人名	有限会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺本館		
所在地	名古屋市西区新道一丁目3番12号		
自己評価作成日	平成30年10月20日	評価結果市町村受理日	令和元年 6月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kihon=true&JigyosyoCd=2370400976-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業理念である「人生楽しく自分らしく」をもとに住人様一人一人の想いに寄り添い、地域の一員としての暮らしを大切にしています。また重度化や終末期にはご家族様やご本人の想いを尊重した支援をいたします。限られた時間、体力低下していく中できることに限りはありますが、食べたいもの、会いたい人、行きたいところ等、ご本人の想いが一つでもかなえられるよう支援していきます。そして看取りの場としてこのホームを選んでいただいた時、医療やご家族様と密に連携し、またスタッフ間で話し合い、共有、協力し、限られた時間、ご本人に寄り添いながら日々の変化にも対応した支援を致します。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	菊井中学校の運動会観覧。幅下学区のお祭りや敬老会、盆踊りにも参加している。以前から、お付き合いのある第三幼稚園の焼き芋会への参加をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の買い物で、地域のお店の利用をしている。買い物中に、何かあれば助けて頂いている。町内会長の奥様にはイベントの時には率先してご協力いただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にて地域の方に理解、支援の方法について話をしている。また、菊井中学校の職業体験実習の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長様にはほぼ毎回ご参加いただき、率直な意見を頂き、地域防災協力の地域提携を結んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所の方もホームに訪問があり、利用者の生活を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外施錠せず、ご利用者様の外に出たいという願いを極力阻害しないようにしている。皆で協力しながら、ご利用者様の安全を見守りながら対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	弊社で、身体的拘束適正化委員会を立ち上げている。3カ月に1回参加している。委員会で挙げた項目を持ち帰り、日々身体的拘束になっていないかどうかをユニット会議などで討議している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護団体と契約している利用者様がいます。月に一度来訪されるため、その都度近況報告をしている。しかしながら、全職員が権利擁護の理解には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に話す内容を会社と協議し、利用者様、ご家族を交えて懇切丁寧に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々ご意見を伺うようにしているが、定期的に利用者様やご家族からアンケートを取り、職員に公表し、必要があれば会議などで話し合っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	弊社で行っている職員アンケート、面談、ユニット会議や、内部監査の聞き取りを通して、会社に対して要望を挙げている。職員の要望などを月1回の管理者会議や、部門別会議にて事案を挙げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の面談、新職員には週1回の面談をしている。賞与時期は、自己評価表と、職員アンケートなどを用いて管理者・スタッフが共に成長できるツールを設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修の機会が設けられている。外部研修も周知されており、希望者が参加出来る様シフト調整を行っている。初任者研修・認知症実践者研修への参加も会社から案内がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内のコンソーシアムが毎月行われており、日程が周知されている。他法人の職員との交流もある。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない頃の不安の心理状況を理解し、帰りたいなどの気持ちを否定せず、傾聴する事で少しずつ信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の来訪時には、積極的にお声掛けし、日々の様子を話したりし、些細な事でも話して頂ける機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等の情報や、ご本人のお話やご様子から支援の方向を見極めている。ご本人から直接お聞きする事を一番と考え、ゆっくりと環境に慣れて頂けるよう、コミュニケーションを密に取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者様の「出来る事・したい事」を、少しでも実現できるように支援しながら、一緒に楽しみ、張りのある生活になるように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何時でも自由に、ご家族様が来館頂ける環境を整えている。ご家族様からのご意見をお聞きし、気づきを頂く場面や、ご家族様を巻き込んでいけるよう、こちらからの働きかけをお願いすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や、関係のある方が気軽に来訪して頂き、時には一緒にいて頂いたり、外出に連れ出して頂けるように働きかけ、時間を過ごして頂く事もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性については、スタッフの中で共有し、時には仲立ちをしながら様子を見ている。ユニットに分かれているものの、垣根を超えた関わりを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の方の事例がない為、前例に倣った対応が出来る様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に沿った生活作りをしている。体調や安全確保できるなどの状況を整え、日々過ごして頂けるようにしている。その際は、ご本人の望みは何か心に傾けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを基に行っているが、ご本人、ご家族、友人などからの情報を集める事にも力を入れている。そこで出た情報を職員で共有し、プランや生活歴に反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々体調、お気持ちは変化することを念頭に置いて様子を職員間で申し送りし、共有している。心身の状況に合わせて臨機応変に対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議で見直しの声掛け、ご家族様の意向についての聞き取り後、カンファレンスを行い、支援の方向をチームで考え決定している。その際には、ご本人、支援に関わるご家族様・医療等専門職の情報や意見を取り入れている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌にご本人の様子・スタッフの支援や気づきの項目に分けている。ケアプランを反映させる為の日誌だが、まだ理解が浸透していない部分もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様から出た「～したい」をかなえられるような行事計画や、日々の生活の中でのニーズを職員がアンテナを張り、可能な限り答えていけるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの理容室、馴染みの近所のスーパーに買い物に行く等、地域資源を生活の一部として活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時にご本人の様子を医師・薬剤師・看護師に伝え心配事等の相談に乗ってもらっている。受診の際は、ご家族様にも相談をし納得のいく医療を受けられるように、支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回専属の訪問看護が入り、利用者様の健康状態を把握しているので、管理者・スタッフはご利用者様の近況の報告、相談をしている。急な体調変化があった時には随時連絡し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様の基本情報を速やかに病院へ提示できるようにファイルを準備している。入院中は、定期的に病院へ出向き、ご本人の様子を担当医師、看護師から伺うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて、ご本人、ご家族様に書面にて説明。終末期には再度、可能であればご本人、ご家族様の意向を確認。医療介護連携をし、ご本人らしく終末期を迎えて頂けるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成。常時見えるところに掲示。ユニット会議などでも確認・演習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練はもとより、非常食・常備水の配置、町内会長を通じての最新情報の収集など行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の性格や、ペースなども考慮しながら、ここにいても良いという気持ちを持てるように、丁寧な声掛けや、困った事を一緒に考える事が出来る様に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面でご本人と話しをしながら決めたり、食事や更衣時などには、どちらを選んで頂くのかなど選択の場を多く持つ事で、表出しやすい場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画である程度の予定は決まっているが、利用者様のペースやその日の気分によって変わる事も想定し、希望に合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に選んだり、時にはご自分で選択できる場面を作っている。季節に応じた調整が図れるように声掛けをする事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ終えた食器を持って行ける方に関しては、持って行ってもらえるようにしている。後片付けは出来る事をお願いしながら一緒にやっているが、作るという事に関しては課題である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じて食事量水分量を記録している。特に脱水状態に陥りやすいご利用者様については、細かく記録を付けている。栄養摂取の面で不安がある状況があれば往診にて相談を適宜に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な利用者様については歯科医と相談をしながら口腔ケアをしている。往診時にも現在の状況を伝え、治療が必要な場合は依頼をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを知り、適宜トイレ誘導や声掛けをしている。オムツを使用される方については、皮膚観察をしっかり行い、快適に過ごしていただけるようにしている。ご本人の体調等に合わせて排泄用品の選定等を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な食事や水分摂取量から、スムーズな排便リズムが出来る事を職員や、排泄がきっかけで気持ちが変わる場合もあるという捉えられるようスタッフ間でも話し合っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気持ちの状態に応じて、臨機応変に対応している。時間の希望にも対応する様になっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご本人の選択に任せている。就寝中は音や光に配慮し、安心して休息できる環境作りに努めている。寝付けない方については、ゆっくりと話を聞くなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬剤情報を職員間で情報共有している。服薬の際の事故を防ぐ為に、専用ボードや服薬管理表を用いている。定期処方薬の変更や頓服の服用時などは少しでも変更あれば記録や申し送りをするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調をみながら、洗濯ものたたみや日めくりなど出来る範囲で役割を担っていただいている。また「手伝おうか」と声を掛けて下さる利用者様に、一緒にやって頂けるよう働きかけている。偏る傾向はある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域を散歩していると、「昔ここに連れて来てもらったの」と喜んで話して下さったことがある。ご友人の方とも職員が知り合いとなり、行き先等聞いて外出され、その後喜びを分かちあう事を意識している。誕生日に野球観戦などを計画し、出かけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力を見ながら、日用品については、本人の購入したいものを買っている。所持金が少ない方については、大切に貯めて買いたいものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があった際は事務所や、ご本人の部屋に行き対応をしている。手紙の際は宛名書きのサポートを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはベランダに接しており、希望があれば日光浴をしたり、季節を感じてもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいだり、お話をしたい方のそばへ行って談笑したり、ユニットを訪問したりと、思い思いに過ごせるよう空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のなじみのものを入居時に持ち込んでいただいている。思い思いの生活空間が出来るように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわからなくなったりしないように、本人が動きだしたら声掛けをして案内している。		